

平坦地緑化に関する調査

佐賀県林業試験場 原 信義

はじめに

佐賀平野という特殊な沖積平野をどのように緑化してゆくかについての基礎資料を得るための一段階として、この地域における緑地の分布状況が調査され、その概要について報告されたが¹⁾、これに引続き、昭和48～49年に当該地に現存する樹木の種類、分布および生育状態について調査したことを報告する。

調査方法と結果

佐賀平野約31,000haについてそこに点在する705集落を対象として樹高11m以上の樹木について調査をおこなった。

まとめにあたっては昭和27年に佐賀県で作成した1:5,000の地形図を使用し、1,200haの区画ごとに集

計をした。(表-2参照)

調査対象地域に分布している11m以上の樹種は表-1のとおりで41科112種でさらにこれを分類すると針葉樹33種、常緑広葉樹34種、落葉広葉樹42種、その他3種類である。

該当地域に成立している全本数は約17,300本最多樹種はクスで約3,200、エノキ2,800、スギ2,000、アラガシ1,300、クロマツ1,000本の順で、全体に対する比率は各々25.8、22.4、16.0、8.1%でこの5種類で全体の70%をしめている。

これらの樹木の分布を各図葉別にみると表-2のとおりで単位面積当りの多い地区は山麓よりの移行部で一番多い図葉は1ha当り4本の分布で、順次減少の傾向で海岸近くでは分布はみられない。また分布の樹種

表-1 佐賀平野に分布する樹木の種類

科名	樹種名	科名	樹種名
いちよう	イチョウ (D)	まんさく	イスノキ (E)、アメリカフウ (C)、タイワンフウ (E)
まき	イヌマキ (A)、ナギ (E)	ばら	サクラ類 (D)、ビワ (E)、カリン (E)
いぬがや	イヌガヤ (E)	まめ	モリシマアカシヤ (E)、ヤナギバアカシヤ (E)
まつ	クロマツ (B)、アカマツ (C)、モミ (D)、ゴウマツ (E) ヒマラヤシダ (D)、ダイオウシヨウ (E)、カラマツ (E)、ドイツトウヒ (E)、外国松 (テダマツ外8種) (E)、スギ (B)、メタセコイア (C)、ラクウショウ (E)、コウヨウザン (E)、ランダイスギ (E)	せんたん	センタン (B)、チャンチン (E)
すぎ	センベルセコイア (E)、ヒノキ (B)、スイリユウヒバ (D)、カイズカイブキ (E)、シノブヒバ (E)、ヒムロ (E) オオゴンヒ (E)	とうだいぐさ	ナンキンハゼ (C)、ユズリハ (E)、アブラギリ (E)
ひのき	ヤナギ類 (C)、イタリアポプラ (D)、カロリナポプラ (E)、ドロノキ (E)	うるし	ハゼノキ (C)
やなぎ	ヤマモモ (D)	もちのき	クロガネモチ (B)、ナナミノキ (C)
やまもも	ベカン (E)、ノグルミ (E)	かえで	カエデ (E)、トウカエデ (E)
くるみ	ハンノキ (E)	むくろじ	ムクロジ (E)
かぼのき	アラカシ (B)、クスギ (B)、イチイガシ (D) スグジイ (D)、シラカシ (E)、クリ (E)、ナラ (E)、ナラカシワ (E)	ほとけのき	コバンモチ (E)、ホルトノキ (E)
ぶな	エノキ (A)、ムクノキ (B)、ケヤキ (C)、アキニレ (E)	あおざり	アオギリ (D)
にれ	クワ (D)、イスビワ (E)	つばき	ツバキ (C)、モッコク (D)、サカキ (E)
くわ	ヤマモガシ (E)	いいざり	クスドイゲ (E)、イイギリ (E)
やましがし	タイサンボク (D)、オガタモノキ (E)、ハクモクレン (E)、コブシ (E)、ユリノキ (E)	うこぎ	カクレミノ (D)
もくれん	ヤマグルマ (E)	はいのき	クロキ (C)、ミミズバイ (E)
やまぐるま	クスノキ (A)、タブ (C)、シロタモ (D)、ヤブニッケイ (D)	えごのき	エゴノキ (E)
くすのき	トベラ (E)	もくせい	キンモクセイ (E)、ネズミモチ (E)
とべら		むらさき	チシヤノキ (B)、マルバチシヤノキ (E)
		ごまのはぐさ	キリ (E)
		のうぜんかずら	キササゲ (E)
		すいかずら	サンゴジュ (E)
		ふともも	ユーカリノキ (E)
		やし	シユロ (B)、トウシユロ (E)、ワシントンヤシ (E)

注) () は調査図葉に対する各種類の出現図葉数の比率 A...81~100%、B...61~80、C...41~60、D...21~40 E...20以下、

数も山麓移行部では50種を数えるが、南部に行くにしたがって減少し、ほぼ分布本数と同一傾向を示している。

樹種別の出現頻度を図葉別にみると、クス、エノキイヌマキが81%以上で、大部分の図葉にみられ平担全域に分布していることが明らかである。出現頻度の低い20%以下の樹種は73種で全体の65.2%で、その内1～2図葉しか出現がみられない樹種は52種で点的に

分布していた。

これらの樹木の分布状態を住居周辺と社寺仏閣、墓地、公共施設に2分して比較すると全本数17,300本の内約26%が後者に分布、特に平担南部では社寺仏閣に林を形成している場合が多く、その地区の緑化風致に閑与している。そしてこれらの社寺仏閣においては、その設立年代と関係が深く数百年を経過した樹木が高木林層を呈しているようすが多くみられる。

表 2 各図葉別の樹木の種類とその分布本数

図 葉 名	調査集落数	調査対象面積 (ha)	樹種	樹木の数 (本)	本数/ha (本)	図 葉 名	調査集落数	調査対象面積 (ha)	樹種	樹木の数 (本)	本数/ha (本)
下野	10	668,01	30	323	0.50	高木	26	1,200,00	47	849	0.71
豆津	1	15,77	0	0	0.00	伊賀南部	28	1,200,00	36	827	0.69
江口	17	894,64	35	480	0.54	広江	23	1,200,00	28	454	0.38
浜田	12	257,81	25	397	1.54	中極	6	100,00	30	403	4.03
坂口	1	41,82	0	0	0.00	池の上	22	1,200,00	70	1,178	0.98
坊所	32	800,00	44	952	1.19	徳万	19	1,200,00	31	678	0.57
江見	32	1,008,31	26	719	0.71	新村	27	1,200,00	27	447	0.37
迎島	7	340,82	12	92	0.27	東新地	4	930,91	6	15	0.02
神崎	34	1,028,81	36	790	0.77	道久西部	0	176,65	0	0	0.00
上直	27	1,200,00	25	347	0.29	津	30	900,00	35	654	0.73
速池	32	1,033,94	29	671	0.65	牛上	25	1,200,00	31	520	0.43
諸富	8	436,03	17	229	0.53	住の江	15	990,76	16	121	0.12
白石	0	13,16	0	0	0.00	下村	11	879,70	11	42	0.05
伊賀	16	800,00	50	669	0.84	船和	2	53,75	0	0	0.00
佐賀	45	1,200,00	32	881	0.73	八町	15	1,200,00	22	212	0.18
光東	37	1,200,00	36	776	0.65	築切	18	800,00	16	111	0.14
大井	21	1,200,00	26	623	0.52	大町	14	540,00	19	123	0.23
早津	19	857,47	23	603	0.70	白行	19	600,00	27	434	0.72
犬井	12	795,92	15	175	0.22						
大井	0	343,05	0	0	0.00	計	705			17,316	
尾道	38	800,00	51	1,521	1.90						

(注) 樹高11m以上を対象として調査

これらの各樹種ごとの分布特性をみると、山麓から平担移行地帯においてはシイ類、カシ類の自生群叢がいたるところにみられ、クス、エノキ、ムク、ヤブニワケイ、タブ、シロダモ、ツバキ、クロキ、クロガネモチ等の混交による自然林を形成、ほぼ良好な生育をなし、高木となっている。

平担南部では、ほとんどが環濠集落で、それをとりまくクリークの周囲で北、西、東にかならず防風林帯が形成されている。この地帯は北部より高木となる種類、本数とも少ないがアラガシ、エノキ、ムク等の高木が自生、これを低木の混交により防風林帯をなしている。またこの地帯ではハウライ竹の群叢が多くみられ特徴ある景観をなし、防風効果のみならず堤塘の崩落防止に大きな役割を果しているものと思われる。平担南部になると高木の分布は減少し、エノキ、ムク、クス、アラカシ等防風林として点在しているが全般的に樹高も低くなり、この地域にもハウライ竹が多くみられる。

られない。

以上のように樹木の分布、生育の状態は地域によって異なっているが、これは自然条件と樹種の特性的相違によると考えられ、平担北部においては、やや乾性の種類のシイ、タブ、ヤブニッケイの自然植生がみられ、中部、南部では春～初秋までの水位が高く、これに耐えるエノキ、ムク、アラカシ、クス、ヤナギ等の分布がみられる。

前述のように出現本数が多く分布範囲の広い樹種は一応平担部に適する樹種として考えられるが、分布本数は少ないが、広範囲に分布し、平担南部においても比較的良好的な生育をしているメタセコイア、ナナメノキ、ナンキンハゼ、ケヤキ、イチイガシ、カクレミノ、イタリアポプラ、アオギリ、サンゴジュ等は耐湿性が強いものと推察され今後の平担の緑化の材料として適当なものと思われる。

参 考 文 献

(1)小部 晃ら : 日林九支研論, 27, 37-38, 1974

史に有明海沿岸近くなると高木はほとんどみうけ